

青森県周辺で採集されるタコ類

野呂恭成

目 的

本邦におけるタコ類の分布と形態的特徴については奥谷^{1), 2), 3)}、奥谷ら⁴⁾が網羅的に報告しており、本邦には 55 種の八腕形目タコ類の生息が確認されている。また、北海道周辺に分布するミズダコ、ヤナギダコ、クモダコの 3 種について漁獲量や生態について報告されているが^{5), 6), 7)}、青森県周辺に分布するタコ類について取りまとめた報告はない。そこで、青森県沿岸で採集されるタコ類の種毎の分布海域や生息水深、体サイズ、採集時期などを整理する。

材料と方法

青森県周辺に分布するタコ類について、漁業者による漁獲、混獲、水産総合研究所試験船青鵬丸（65 トン）によるトロール調査、遊漁者による採集、でそれぞれ集めた標本を用い、標本サイズ、採集時期、採集水深を記録、整理するとともに、文献調査をおこなった。

結 果

青森県周辺で採集されるタコ類には、青森県周辺に生息しているマダコ類 5 種と、浮遊生活をおくり他海域から青森県沿岸を漂流する 6 種の合計 11 種がある。本研究で得られた採集記録、収集した遊漁者等の採集情報、文献情報^{8), 9), 10)}により、青森県周辺で採集される八腕形目中、底棲生活をおくるマダコ類と浮遊生活をおくるタコ類に分け、大きさ、採集水深、採集海域、体重、地名を表 1、表 2 にそれぞれまとめた。

記録されたマダコ類は、ミズダコ *Enteroctopus dofleini*、マダコ *Octopus vulgaris*、ヤナギダコ *Octopus conispadiceus*、イイダコ *Octopus ocellatus*、テナガダコ *Octopus minor* の 5 種であった。このうち漁獲対象とされているのはミズダコ、マダコ、ヤナギダコの 3 種であり、わずかにイイダコが自家消費用として漁獲される。ミズダコ、マダコ、イイダコは全海域で採集されたが、ヤナギダコは陸奥湾では採集されなかった。テナガダコは陸奥湾でのみ採集された。採集された種毎の最大体重は、それぞれミズダコで 36,500g、マダコで 3,620g、ヤナギダコで 6,600g、イイダコで 79g であった。種によって分布水深は異なっており、ミズダコは季節により深浅移動し、水深数 m から 350m までの広い範囲に、マダコは数 m から 65m の沿岸部に、ヤナギダコは 80m～350m の比較的深い水深帯にそれぞれ分布していた。また、イイダコは数 m ～100m の沿岸部に、テナガダコの採集記録は少なく、十数 m の泥場で採集された。

採集された浮遊性タコ類は、ムラサキダコ *Tremoctopus violaceus gracilis*、アミダコ *Ocythoe tuberculata*、アオイガイ *Argonauta argo*、タコブネ *Argonauta hians*、チヂミタコブネ *Argonauta boettgeri*、カンテンダコ *Haliphron atlanticus* の 6 種であり、いずれも漁獲対象となっていない。ムラサキダコは全海域で、アミダコは日本海、津軽海峡、太平洋でそれぞれ採集された。アオイガイ科では、アオイガイは日本海、津軽海峡、陸奥湾で採集されたが、タコブネ、チヂミタコブネは津軽海峡のみの採集記録であった。カンテンダコは津軽海峡のみで採集された。

採集された種ごとの最大体重は、ムラサキダコで 1,844g、アミダコで 2,570g、カンテンダコで 25,000g、また、アオイガイ科では、アオイガイの殻の最大は 21.5cm、タコブネは 9cm、チヂミタコブネは 5.2cm であった。浮遊性タコ類の採集時期は種によって異なっており、ムラサキダコは 7 月～10 月、アミダコは 2、4、5、11、12 月、アオイガイ、タコブネ、チヂミタコブネは 10 月～12 月^{8), 9), 10)}、カンテンダコは 11 月～1 月であり、アミダコを除いて夏季から冬季に採

集されていた。

ミズダコ、マダコはそれぞれ地方名で呼ばれており、販売規格も地方名で決められている。ミズダコは、大型のオスが「ミズダコ」、大型のメスが「マダコ」と呼ばれ、小型の個体は「並ダコ」、「小ダコ」である。マダコは「イシダコ」「ゴジラダコ」である。

表 1 青森県周辺で採集される八腕形目－マダコ科

学名	<i>Octopus dofleini</i>	<i>Octopus vulgaris</i>	<i>Octopus conispadiceus</i>	<i>Octopus ocellatus</i>	<i>Octopus minor</i>
標準和名	ミズダコ	マダコ	ヤナギダコ	イイダコ	テナガダコ
水深 (m)	数m～350m	数m～65m	80m～350m	数m～100m	—
体重 (g)	12g～37,000g	10g～3,620g	223g～6,600g	12g～79g	—
採集海域					
日本海	○	○	○	○	—
陸奥湾	○	○	—	○	○
津軽海峡	○	○	○	○※ ¹	—
太平洋	○	○	○	○	—
地方名	マダコ(大型のメス) ミズダコ(大型のオス) シオダコ(大型のオス)	イシダコ ゴジラダコ ガックラダコ ガンダコ		イッパイダコ スナダコ	

表 2 青森県周辺で採集される八腕形目－ムラサキダコ科、アミダコ科、イダコ科、カンテンダコ科

学名	<i>Tremoctopus violaceus gracilis</i>	<i>Ocythoe tuberculata</i>	<i>Argonauta argo</i>	<i>Argonauta hians</i>	<i>Argonauta boettgeri</i>	<i>Haliphron atlanticus</i>
標準和名	ムラサキダコ	アミダコ	アオイガイ	タコブネ	チヂミタコブネ	カンテンダコ
水深 (m)	—	—	—	—	—	—
体重 (g)	102g～1,844g	300g～2,570g	—	—	—	17,900g～25,000g
殻長	—	—	2.1cm～21.5cm※ ²	5cm～9cm※ ²	5.2cm※ ²	—
採集海域						
日本海	○	○	○	—	—	—
陸奥湾	○	—	○	—	—	—
津軽海峡	○	○	○	○	○	○
太平洋	○	○	—	—	—	—
採集月	7月～10月	2月, 5月, 6月, 11月, 12月	10月～12月	10月～12月	10月～12月	11月～1月

※¹ 山内弘子他 (2007)¹³⁾

※² 奈良正義 (2003)

考 察

青森県周辺で採集される八腕形目について整理した結果、底棲種では、種毎に出現海域や生息水深、出現時期が異なっており、種毎の生理特性に応じて生息場所を選択していることがうかがわれた。一方、浮遊性タコ類は夏季から冬季にかけて多く出現し、これらの種は対馬暖流によって日本海を北上し、津軽海峡を経由し陸奥湾、太平洋に達すると考えられた。本県日本海の対馬暖流は秋季に水温が高く、流量が多くなり¹¹⁾、津軽海峡の流量は9月に最大に、3月に最小となることから¹²⁾、浮遊性タコ類は対馬暖流、津軽暖流の流量の多い時期に多く採集されていた。

文 献

- 1) 奥谷喬司 (1984) 八腕形目の科の特徴. 海洋と生物, 31, 97-99.
- 2) 奥谷喬司 (1984) 底棲性八腕形類の分類と形態 (1) マダコ科の分類. 海洋と生物, 33, 257-263.
- 3) 奥谷喬司 (1984) 底棲性八腕形類の分類と形態 (2) マダコ科の生態. 海洋と生物, 34, 330-335.
- 4) 奥谷喬司・田川勝・堀川博史 (1987) 日本陸棚周辺の頭足類. 社団法人日本水産資源保護協会, 東京, 189pp.
- 5) 北水研, 北水試 (1962) 本道でとれるタコの種類と特徴. 北水試月報, 19 (7), 28-31.
- 6) 三橋正基 (2003) ミズダコ. 「漁業生物図鑑 新 北のさかなたち」(水島敏博. 鳥澤雅監修), 北海道新聞社, 北海

道. pp. 342-347.

- 7) 三橋正基 (2003) ヤナギダコ. 「漁業生物図鑑 新 北のさかなたち」(水島敏博. 鳥澤雅監修), 北海道新聞社, 北海道. pp. 348-351.
- 8) 奈良正義 (1980) 軟体動物頭足綱, 特にたこぶね科について. よし, 41, 2-5.
- 9) 奈良正義 (2003) 下北半島のアオイガイ科について. ちりぼたん, 34, 1, 4-6.
- 10) 奈良正義 (2003) 下北半島のアオイガイについて. 青森県自然誌研究, 8, 77-79
- 11) 佐藤晋一 (2001) 対馬暖流の流勢評価について. 青水試研報, 1, 17-26.
- 12) 杉本隆成 (1985) 第4章津軽海峡Ⅱ物理2. 日本全国沿岸海洋誌 (日本海洋学会沿岸海洋研究部会編), 東海大学出版会, 東京都, pp. 149-154.
- 13) 山内弘子・小坂義信・吉田達・鹿内満春 (2007) ほたてがいの増養殖 IT 推進事業 (地まき増殖ホタテガイ実態調査Ⅱ). 青水総研増事報, 36, 175-179.